

十年の留萌人の結集政治活動は結実したのであった。
この年から大留萌建設の樞音はまず海に響きわたることになった。

〈大正のころ〉

〈町民ぐるみで大留萌建設へ〉

大正時代は十五年間の短い年数であるが、この時代も明治後期の史実に匹敵するといえる。
国費による港湾築設と相平行して策定された町費による、いわゆる大留萌建設事業の遂行と完成がそれである。

築港工事進行とともに大留萌建設事業の企画はテンポを早めていくことになる。大正六年、六代町長野本治平のときに至って、企画は急に実行性をおびることとなった。

事業費の財源は生命保険会社からの借入金に求め、これが返済不能におちいったことから、留萌町の町債問題は天下の一大話題として、当時日本の政界、財界の注目をあつめたものである。

副港築設、留萌川切替、旧河川埋立、市街地造成を内容とする人口十万人大留萌建設事業は、大正十一年から十三年の三カ年で急ピッチに進められ、翌十四年一月二十五日、木の香もかばしい新築中学校で盛大な祝賀会が行なわれたがこの日は市史上、留萌人の忘れがたい記念日となった。

▽11年・7月補修学校廃止、町立女子職業学校を開設/9月大留萌建設事業に着手する。世帯数二千五百八十七戸
▽12年・10月町長に村本初太郎が就任する/12月留萌川切替完成。
▽13年・4月北海道庁立留萌中学校が開設/8月高橋文平道会議員に当選/12月大留萌建設事業完成する。人口一万五千八百三十九人
▽14年・1月大留萌建設事業完成祝賀会を開く。
▽15年・5月町長に小林正義が就任する。人口一万三千九百九十人

〈昭和に入る〉

▽2年・9月留萌商業中等夜学校が開設/10月留萌・鬼鹿間に鉄道が開通/留萌保育所ができる/当時の町人口一万三千九百九十八人
▽3年・8月高橋文平が道会議員に当選/11月港北小学校が開設。
▽4年・4月町長に樺田三郎が就任する/人口一万五千人となる。
▽5年・1月五十嵐徳太郎葬儀、町葬で行なわれる。
▽6年・12月留萌築港工事が完了する。
▽7年・3月町長に赤石忠助が就任する/8月玉置信一が道会議員に当選する/9月留萌・羽幌間の鉄道開通する。
▽8年・8月留萌港竣工記念祝賀会が開催される。
▽9年・6月町債問題が解決/町立留萌病院を開設。
▽10年・5月北防波堤に灯台ができる。
▽11年・2月留萌港が国際貿易港に指定される/8月玉置信一道会議員に当選する。▽12年・人造石油工場の誘致が始まる。
▽13年・8月堺太一が道会議員に当選する/職業紹介所が設置。
▽14年・10月人造石油工場は研究所として設置される/11月町長に岡田佐市が就任する。▽15年・8月堺太一が道会議員に当選する。
▽16年・3月小学校を国民学校と改称する。
▽17年・4月天塩鉄道の留萌・達布間が開通。
▽18年・4月留萌愛児園(託児所)開設/7月上水道一期工事着手
▽19年・10月留萌保健所が設置/東光小学校が開設する。
▽20年・8月留萌沖で樺太引揚船三隻が撃沈される。
▽21年・12月留萌商工会議所が設立/引揚者で人口が急増する。
▽22年・1月市制施行促進町民大会が開催/4月町長に原田太八が就任する。四十栄助三郎が道会議員に当選/5月留萌中学校・幌糠中学校が開設する/10月市制施行・留萌町が留萌市となる(当時人口三万五千七百人、原田太八初代留萌市長に就任する。
▽23年・4月道立留萌高等学校が開設/留萌・函館・大阪・博多を結ぶ日本定期航路開設/8月第一回港まつり開催/10月市内町名が制定となる/米軍の駐留基地となる。
▽24年・1月玉置信一が衆議院議員に当選する/3月上水道第二期拡張工事に着手/5月東京・清水・名古屋を結ぶ日本定期航路開設される/藤山ダムが完成する。
▽25年・4月道立留萌高等学校を留萌高等学校に併合/5月港南中学校が開設/9月市立東病院を開設/11月五十嵐徳太郎特別功労章を贈る
▽26年・3月市立留萌図書館を設置する/4月四十栄助三郎が道議会議員に当選・伊佐津和乎に市功労章を贈る/5月公民館を設置。
▽27年・2月留萌港が重要港湾に指定される。立花徳太郎に市功労

〈昭和に入って〉

市制施行と港湾整備

昭和の年代は進行中であるから時代ではない。
しかし、過去の昭和の歴史の中では二大特徴をあげることができ

昭和八年八月の留萌築港完成と昭和二十二年十月一日の市制施行日の二つである。

築港完成は、明治二十四年第一次帝國議會請願運動以来四十二年、明治四十三年着工以来二十四カ年の官民労苦の結晶を意味し、後者はつばみの留萌が実力の充実により自然に開花したつばみへの追懐、満開の歓喜と将来への希望を意味するだろう。

昭和二十二年をもって港湾都市留萌は、形態として実現された。このときが、留萌の郷土史に一応の大句点を打った最盛期といえようである。



初代市長 原田太八



2代市長 橋本作市

章を贈る/4月四十栄助三郎が道議会議員に当選/10月玉置信一が衆議院議員に当選/市教育委員会が発足/敬老会を初めて開催する
▽28年・1月留萌中学校火事になる/4月玉置信一が衆議院議員に当選する/11月自衛隊が駐とんする。
▽29年・3月市長に橋本作市が就任する/5月原田太八に特別功労章を贈る/米軍駐留軍が引き揚げる。
▽30年・4月泉谷順治が道議会議員に当選/5月樽真布中学校が併設校として開設する。▽31年・3月法務局留萌支局が設置となる。
▽32年・市営球場が完成する/留萌・東京間の定期航路が開設。
▽33年・4月緑ヶ丘小学校開設する/5月元町大火、二百五十二戸が焼け出される。▽34年・4月大島仁三郎が道議会議員に当選。
▽35年・3月上水道第四期拡張工事に着手/4月酪農短大留萌分校が開設する/10月第一回市民体育大会開催/11月市民文化祭を開催
▽36年・1月留萌・札幌間に急行運行/7月留萌港が検疫港に指定
▽37年・3月市長に原田栄一が就任する/4月北光中学が開設する
▽38年・4月市内豊志が道議会議員に当選する/12月留萌・旭川間に直通準急が運行する。▽39年・12月市の市章を制定する。
▽40年・6月給食センターを設立/衛生センターを設立。
▽41年・1月南岸ローダーが完成する/3月留萌灯台が点灯開始/3月留萌工業高等学校が開設/4月留萌商工学園が開園する。
▽42年・4月東興後が道議会議員に当選/6月電話ダイヤル式即時通話となる/12月事業内職業訓練所が設置される。
▽43年・2月市立総合病院を新築する/5月塩尻町土地造成事業が始まる/8月青年会館を設置する/留萌小学校新築工事が始まる。
▽44年・8月花園地区画整理事業完了する/11月留萌小学校全焼
▽45年・6月駅前地区土地画整理事業に着手/11月四十栄助三郎太田吉次郎に市功労章を贈る。留萌小学校野球場、初の甲子園に出場する/10月市営火葬場完成・共同福祉センター完成/11月港南中学全焼する。▽47年・6月港南中学校建設に着手/7月原田市長がウランウデ市を訪問、正式に姉妹都市の縁結びをする/9月老人福祉センターが完成/ウランウデ市から初の訪問団が来留する。
▽48年・1月老人福祉センター完成・駅前地区土地画整理事業が完成/3月市憲章が制定される/4月スポーツセンターが完成/5月公民館が完成・東光小学校建設に着手。
▽49年・3月故春木清作氏に市功労章を贈る/12月幌糠公民館が完成/11月働く婦人の家が完成。
▽50年・11月留萌市外二町衛生センター工事着手・東光小学校が完成・南九条橋架替工事完成。
▽51年・11月勤労者体育センター(武道館)建設に着手・北岸ローダー撤去始まる。
▽52年・2月第一回冬まつり開催/6月勤労者体育センター完成/9月UHFテレビ局開局/10月留萌市開基百年・開港四十年・市制施行三十周年を迎えた。



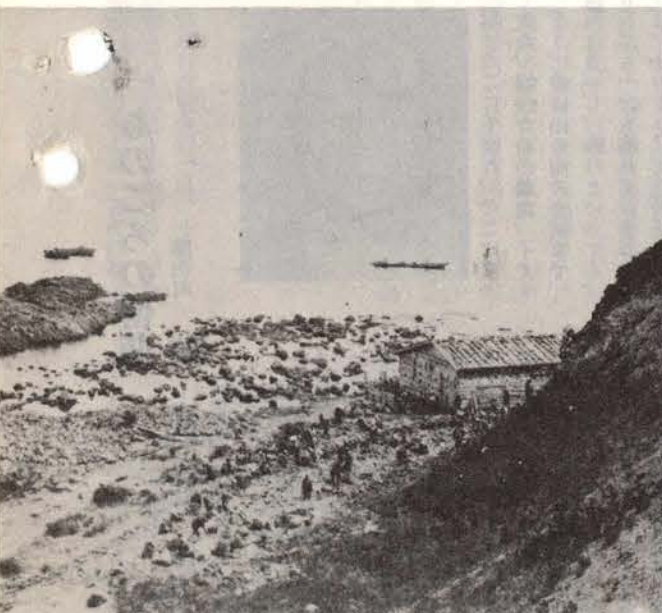
昭和初期の市街地風景



開港当時の内港(左)全景と北灯台(上)



大正時代の留萌瀬越浜(黄金岬)築港用の碎石従業の風景



留萌町役場の全景(旧市役所庁舎)